

2018

ツナガルカンケイ



 P1-2 プログラム内容

 P3-4 受け入れ団体一覧

 P5-6 インターン生の活動風景

 P7-8 インターン生座談会

 P9 受け入れNPO・大学からの声

 P10 インターン生のアンケートより



プログラム内容

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。
活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。
NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです。



実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。

Step
2

事前研修会



Step
3

志望先の調整&面接

Step
1

NPOと学生のお見合い会

参加学生と受け入れ団体が直接話すことができる機会です。
様々な団体を見て、活動したい団体を選びます。



志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。



Q&A

アルバイトなどで活動に行けない日があります。

活動内容・活動日は受け入れ団体と相談して決めてもらっています。「連続で活動しなければならない」「1日6時間活動しなければならない」などのルールは定めていないので、いつ活動に参加するのか、受け入れ団体と一緒に決めてください♪

途中で参加できなくなってしまった場合はどうすればいいの？

定められた時間の活動を行う約束のプログラムなので、途中で参加をやめることは原則認められていませんが、やむを得ない事情で参加が出来なくなってしまった場合は、すぐに自身の受け入れ団体への相談、大学・事務局への報告を行ってください。その場合は一緒にどうするか考えていきましょう。

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流も開催。

Step 4 活動体験



Step 5

修了式・成果報告会

活動してきた事を振り返り、活動内容を共有します。最後に修了書を受け取り、プログラムは終了です。

2018年度の活動

長期実践型

期間：週1~2回(200~400時間)
時期：8-2月

短期体験型

期間：10日前後(80時間)
時期：8-9月

参加者数 計77名

困ったことがあればどうすればいいですか？

一人で抱え込まず、周りの人に相談してみましょう！

活動をする上での相談なら自身の受け入れ団体や他のインターン生、プログラム自体に関する相談なら事務局や大学など、相談内容によってどこに相談するのが一番か判断して、声をかけてください。解決できるようサポートします！

このインターンシップで何が得られますか？

一律に「この能力が身に付きます」というようなプログラムではありませんが、このインターンシップでは、事前の研修会で、自分自身の目的・目標を定めてから活動を行います。活動の途中で改めて目的・目標を確認する機会、成果報告会で最終的な自分の成長を発信する機会もあるので、自分で自分を高めていくことができるようなプログラム内容になっています！



受け入れ団体一覧



**片倉うさぎ山公園遊び場
管理運営委員会**
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



NPO法人教育支援協会南関東
子どもの体験学習支援



NPO法人ビーのビーの
子育て支援



**NPO法人かながわ外国人
すまいサポートセンター**
外国人支援(すまい探し・生活相談など)



NPO法人WE21ジャパン
リサイクル、国際協力



NPO法人横浜NGOネットワーク
国際協力



NPO法人STスポット横浜
芸術文化



NPO法人アークシップ
まちづくり、アート



NPO法人アクト川崎
環境学習、地球温暖化防止、
市民活動支援



コトラボ合同会社
「ヨコハマホステルヴィレッジ」
コミュニティ再生、起業



NPO法人ぐらす・かわさき
地域活動支援センター
「メサ・グランデ」
コミュニティカフェ・市民活動支援



大倉山おへそ
まちづくり・コミュニティスペース



NPO 法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



**障害者自立支援生活センター
IL・NEXT**
障害者自立支援



NPO法人地球市民ACT
かながわ
国際協力



NPO法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援



NPO法人地域生活センター
障害者福祉



公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全(教育・調査・管理)



NPO法人森ノオト
環境・メディア



NPO 法人ピッピ・
親子サポートネット
学齢期児童の居場所



NPO法人横浜市民アクト
(ほどがや市民活動センター
アワーズ)
市民活動支援、まちづくり



**NPO法人横浜コミュニティ
デザイン・ラボ**
まちづくり・メディア



NPO法人アクションポート横浜
市民活動支援



インターン生の活動風景

長期インターン生の活動



ミーティングでは毎週白熱した議論がなされます。



本番まで残り20日！
残り少ない期間でなにができるか模索していきます。

イベント当日！
すべてのプログラムが無事終了し記念撮影。
あの達成感は忘れられません。



7月

8月

9月

10月

10月14日



イベントの出演者さんのライブに訪問。
出演者さんの魅力を伝えるのも広報の一環です。



少しでも多くの方に
知っていただけるよう
に各地でパンフ
レットを配布・配架
していきます。

短期インターン生の活動



【オリエンテーション】
外国人がなぜ日本にいるのか、私たちが目指すべき社会とは何かを教えてくださいました。とても興味深い講義でした！

他にも...

【平成30年度神奈川県
居住支援協議会居住支援部会】
【横浜市中区役所職員研修】
【社会保障フォーラムin神奈川】

など、様々な活動に参加しました！

1日目 2日目

6日目



【第25回AID文化フォーラムinYOKOHAMA】

AID文化フォーラムに参加し、
すまセンがどういうことをしているのか知ってもらうように、予め色々作り、当日来場者の方に広めました！



【翠嵐高校ヒアリング】

翠嵐高校の学生がすまセンに
いらっしゃり、スタッフの方が
高校生の方に今外国人が日本に
いる状況やすまセンの業務内容
を教えました。高校生の考え方も
聞けて、楽しかったです！

1日の流れ

- 11:00 すまセン到着
当日行う業務をスタッフさんに確認
- 12:00 休憩
スタッフの方と一緒に昼食を食べて休憩
- 13:00 作業再開
資料を整理したり、相談者の相談を聞いたりする
- 15:00 作業終了
すまセンを後にする

アークシップ 長期インターン生

Q1.この団体を選んだ理由は？

あまりはっきりとした理由などは思い出せませんが、なにか新しいことを始めようと思いアークシップを選んだのだと思います。私は元来あまり人と関わることが億劫な人間なのですが、だからこそ人との触れ合いが豊富なNPOインターンシップではどんな経験ができ、またそんな自分でも変われるのかと期待していた部分もあったと思います。

Q2.活動で手ごたえを感じたことは？

イベントの当日までに特定のポーズをした写真を2018人分集めるという企画をやったのですが、その経過が一番手ごたえを感じました。はじめはどうしていいかわからずうまくいくのか不安でいっぱいでしたが、写真を集める過程でたくさんの人に協力をもらい、それが自分のモチベーションにもつながっていました。目標にはあとわずかで達することはできませんでしたが、NPOならではの体験ができたと思います。



専修大学3年
福島亘さん

Q3. NPOへの印象の変化は？

始める前はなにか社会のためになるようなことをボランティアで行っている団体なのだろうと想像していました。実際はその活動範囲というのは幅広く、ボランティアというより、その地域がもっとおもしろくなるように活動している団体でした。

Q4.団体の方へメッセージ

本当に感謝しかないです。私はあまり話すことが得意ではないのでうまくやっていけるか心配でしたが、とてもフレンドリーな方たちばかりでアークシップは想像していたよりずっと居心地の良い場所になりました。それに学生の私たちに本気で意見をくれたり、相談にのってくれて嬉しかったです。本当にとても濃い半年間になりました。

かながわ外国人すまいサポートセンター 短期インターン生

Q1. NPOインターンシップ参加理由

元々NPOインターンシップ説明会のボランティアスタッフとして参加しましたが、説明会を聞いていくうちに、魅力的な団体がたくさんいらっやっていたので、私もNPOインターンシップをして見たいと思いました。

Q2.この団体を選んだ理由は？

日本に外国人の方が増えていく中、多文化共生ができていないのが現状だということを知り、NPOかながわ外国人すまいサポートセンターは外国人の住まい関係だけでなく、色々な面をサポートする団体だと知り、間近で現場を見たかったので、選びました。

Q3.活動で手ごたえを感じたことは？

相談者の問題を聞き、スタッフの方と一緒に問題が解決するまでサポートすること。その後にありがとって言われるのがとても嬉しかったです。



明治学院大学1年
天野萌さん

Q4. NPOへの印象の変化は？

始める前はただのボランティア団体で、一回のボランティアで終わりと思っていたのですが、終わった後はちゃんと寄り添いながらボランティアしているとわかり、温かみを感じることができました。

Q5.団体の方へメッセージ

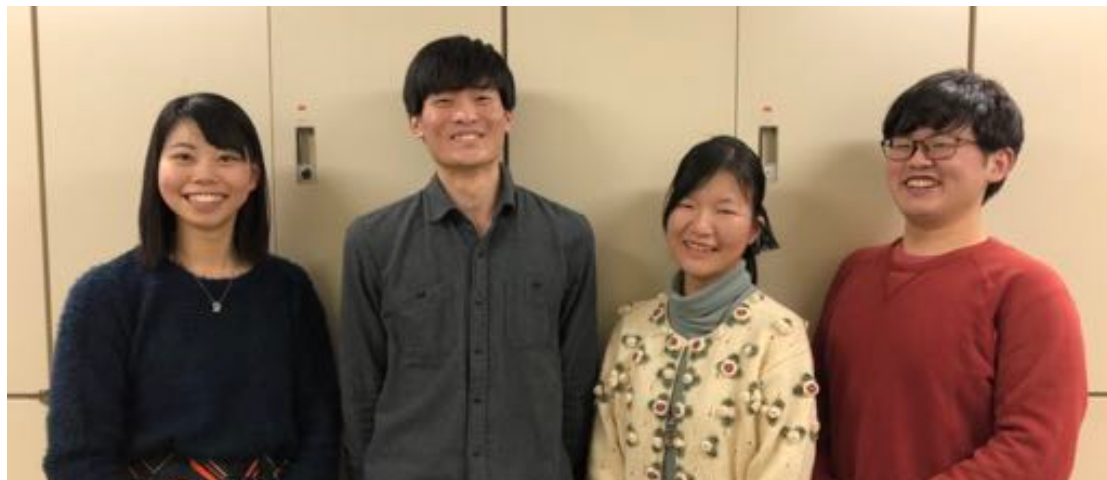
短い間でしたが、相談者の方やスタッフの方たちと関わり、新しい価値観や経験を得ることができました。楽しいインターン生活ありがとうございました！

Q6.応援して下さる大人へメッセージ

NPOインターンシップは普通の企業インターンシップとは違い、人生が変わるような大きい出会いや考え方に会えることができる場所だと思っています。なので、これからもNPOインターンシップを応援してください！ありがとうございます！



インターン生座談会



◆学生座談会

2019年2月、NPOインターンシッププログラムに参加した学生を交え、座談会を行いました。今回は、STスポット横浜で短期インターンをした芥川さん（横浜美術大学3年）と、横浜NGOネットワークで長期インターンをした加藤さん（専修大学2年）に参加していただきました。

司会：本日はよろしくお願いいたします！早速、インターンに参加したきっかけから教えてください。

芥川：きっかけは大学の授業でした。そこに高城さんがいらして、説明を聞きました。当時私は、ボランティアサークルの副代表として活動していたので、新たな経験積んで活動に役立てたいなと思ったことから、企業ではなくNPOを選びました。美術大学の特色を生かし、地域とどのように関わっていくのかを模索していたところだったので、「やってみよう！」との一心から美術系の団体であるSTスポット横浜を選び、参加しました。

加藤：自分は単純に「インターンをしたい」と思いました。インターンって3年生でやる人が多いと思うんですけど、やるなら早い方がいいなと思って。大学のポータルサイトで説明会があることを知り、そこに参加したことがきっかけでした。そしてNPOを選んだ理由は、将来のやりたいことと繋がると感じたからです。僕は国際協力に関心があって、それを行っている多くが政府組織や非営利団体だと考えていました。そのことから、国際系の団体である横浜NGOネットワークを選び、参加しました。

司会：2人のきっかけは少し違うね。今の現状を突破しようという想いで参加している人もいるし、将来に生かしたいという想いで参加している人もいるんだね。

司会：では次にインターンを経験したことで生じた、新たな考えや得たものがあれば教えてください。また、困ったことや参加した感想をお願いします。

芥川：でも、楽しかったですよ。行く前は不安もありましたが、活動内容が芸術系で、地域におけるアート活動の視察にも行かせてもらえたので。自分がやってみたいなと思っている舞台美術とか、専攻の繊維に関する活動をしている団体があることを知れただけでも面白かったです。だから、行くのが楽しみで仕方がなかったから、終わるときは寂しかったな。唯一大変だったのは、活動先が遠かったことくらいかな。交通費が結構かかってしまいました。でも、凄く楽しい時間ではあったし、卒業した後も自分の専攻を活かして活躍できる場があることを知れたので、参加して本当に良かったなと思いました。また、自分の行ける日程を聞いてくれて、その中で10日間活動が出来たのはとても有難かったですね。受け入れ先団体の方々、優しさと社会の厳しさの両方を教えてくれたかな。活動を体感するだけではなくて、いろんな話を聞くことができました。この活動に参加するまでの経緯を知れたのは、とても参考になりましたね。

加藤：参加前に想像していたのは、国際的な話題についてすごい話していたり、直接的な働きかけをしたりしているのかなと思っていたんですけど、そこは少し違っていました。インターンに参加をして興味の分野を絞りたいと思っていたけれど、逆に視野が広がっていきましたね。共通の分野で自分より経験している人からアドバイスをもらえたことは、大きかったと思います。

司会：単発ボランティアだと、スタッフとの関係性が密にならないことも多いけれど、長く携わっているからこそ受け入れてくれて、いろんなことを言ってくれたのかもしれないね。

加藤：それが長期にした理由の一つでもありますね。イベントだけではなくて、日常の活動の様子も知ることがなかったので。

芥川：中間支援団体に行ったからこそ、他団体の方に来て話をすることも多かったし、活動に参加することもありました。ただ見守るのではなく、「一緒に走っていく」という考え方に感動しました。

司会：なるほど。多くの団体の人と出会えるのはこのプログラムの良いところだね。二人の話を聞いてさらに質問したいんだけど…。2人はインターンを経験して、将来のやりたいことは変わった？それとも変わらない？

芥川：私は、継続して芸術系のことを続けたいと思うようになりました。いろんな方と出会ったことで、私は活動が続けていてもいいんだと安心することができましたね。

加藤：インターンを経験しても、国際系をやりたいという気持ちは変わらないですね。

司会：二つともきっといい団体なんだね。今でも、インターン先とは関わりはあるの？

芥川：メールでイベントのお知らせをもらうので、たまに参加しています。「インターンが終わった後でも、顔を知っているんだから来てくれてかまわないよ」と団体の方は言ってくれます。

司会：それはいいね。では最後に、参加する前の自分に今だからこそ伝えたいメッセージがあれば教えてください。

芥川：正直インターン行くのは面倒だと思っていたし、不安しかなかったけど、今だから思うのは…やってみて広がる世界があります！！

一同：おー！カッコいい。こう言われたら、飛び込んでみようかなってなるわ。

加藤：言うとしたら「おめでとう」かな。以前は物事を始める前にきれいな形を求めすぎて、動けないところがあったんです。でも考えすぎず、結果どうあれやってみようという感じで一歩踏み出してみたら、意外と上手くいったんですよね。だから迷っているなら、とりあえずやってみたらいいということを伝えたいですね。

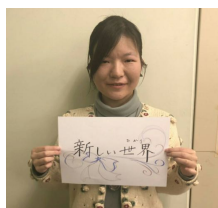
司会：考え方に変化があったんだね。とりあえず行動に移してみなきゃ始まらないしね。

加藤：そうですね。完璧じゃないし、天才でもないし。

司会：そうそう、初めからできる人はいないよね。

最後に、良いことが聞けました。お二人とも今日は、ありがとうございました。

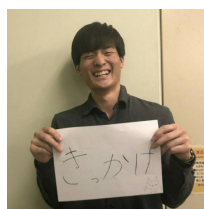
座談会を振り返って 「私にとってNPOインターンシップとは」



「新しい世界」

「何事も続けること」を胸に刻んで、今学んでいることを続けていいの不安でした。でも行ってみて、やることで広がった世界があります。その世界に踏み出すことで、「続けていい」と実感ができました。NPOインターンシップは、私の希望の光。

STスポット横浜 短期インターン生
横浜美術大学3年 芥川みさとさん



「きっかけ」

自分にとって一歩を踏み出すきっかけ。インターンも視野を広げることも、繋がりを広げることも、いろいろなきっかけになった。一歩を踏み出すと二歩も三歩も出てくる。ダメだと思ったら戻れるし、違う方向へもいける。そのきっかけを作れた。

横浜NGOネットワーク 長期インターン生
専修大学2年 加藤力丸さん



受け入れNPO・大学からの声



認定NPO法人
地球市民ACTかながわ
伊吾田 善行 様

このNPOインターンシップは、学生さんが主体的に社会と関われるきっかけを作り、誰もが社会に必要とされている事を知ることで、将来世のため人のために役に立つ仕事に就き、生きがいを持って働きながら、自分の暮らす地域にも溶け込み、喜怒哀楽を共にし、支え合い助け合い「みんなの幸せが自分の幸せ」と感じられる豊かな社会の実現に向けての仕組み創りだと思っています。そのため私達は学生さんを豊かな社会を共に創る仲間として責任を持って育成しなければならないと思っています。



特定非営利活動法人
横浜NGOネットワーク
小俣 典之 様

NPOインターンシップは、国際協力に関心を持つ学生が、自分の夢や能力と対峙しながら視野を広げ、成長していくプロセスに関われる点が最大の魅力です。おこがましくも人材育成を団体のミッションに掲げながら、一人一人の学生が自らを成長させていく内的な若いエネルギーにいつも驚かされています。インターンシップの活動を通して年齢やセクターを越えた人と人との繋がり の価値を知り、SDGs時代を生きる世界観を持って社会に飛び出して行ってもらえれば、これ程嬉しいことはありません。



横浜商科大学
商学部長
佐々 徹 教授

現在では5万を超えるNPOが活動し、様々な社会課題の解決に取り組んでいます。私たちの社会にとって不可欠な存在です。しかし、実際にNPOの仕事はどのようなものか、組織はどのように運営されているのか、企業とはどこが同じでどこが異なるのか、といったことに対して、具体的なイメージを持っている学生の皆さんは少ないようです。このインターンシップが、皆さんのNPOに対する理解を深め、新たな社会課題の解決に向けた新たなNPOの立ち上げへの挑戦につながることを期待します。



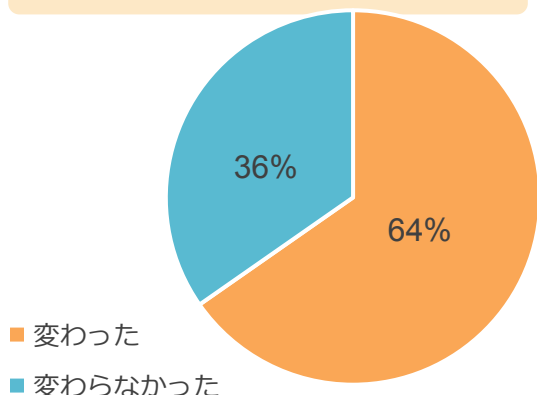
フェリス学院大学
ボランティアセンター
コーディネーター
堀尾 藍 様

地域には幅広い年齢層や様々な文化を背景とした方々が居住しているため、様々な課題が存在します。学生たちは、NPOでのインターン活動期間中に課題と直面しますが、大学の講義のみでは得られない生の現場の声であり、「如何にしてその課題が解決できるか」という問いに対し、学生が自分の知識や経験、文献等によって考えることで、課題解決する能力が養われると思います。また、インターン活動によってコミュニケーション能力や情報リテラシーが養われると私は考えます。



インターン生のアンケートより

NPOに対するイメージの変化



「団体内のみ活動ではなく、市や他の企業との関わりがあった。」

「堅いイメージからアットホームで関わりやすいイメージに変わった。」

「地域のために積極的に活動しており、生き生きとしている印象を受けた。」

「インターンシップを経験したことで、NPOに興味を持つようになり、大学の履修にも変化が出た。」

感想ランキング(複数回答可)

- 1位 いままでやったことのない経験ができた (17%)
- 2位 地域活性化やまちづくりへの関心が高まった (12%)
- 3位 大学生活（特に夏休み）を有意義に過ごすことができた (9.9%)

生の声を一部紹介！

●NPOという名前を知っている人はたくさんいても、実際にどんな活動をしているのかは知らなかったなので、知る機会が出来て良かった。

●10日間長いと感じていたけど、その分たくさんの活動をする事ができた。自分の成長した点を見つけることができた。

●インターンシップへの参加が初めてだったので、始まる前はすごく緊張したが、団体のスタッフの皆さんがとても温かく迎えてくださったので、楽しみながら活動することができた。

●子育ての現場でのインターンを経験したことで、自分の親への感謝が深まった。

●他大学の人やNPOの人と多く関わりを持てて、とてもいい機会になった。

●インターンシップ期間中でいろいろな方と出会い、お話しできたことで、積極性や話し方などが変わっていった。

●障がいの特性を知り、話し方を工夫することの大切さを学んだ。これまでコミュニケーションがうまく取れず悩んでいたが、相手への対応が変わった。

●もっと早くこのインターンシップを知っていれば、長期にも参加したかった。活動期間も柔軟に対応してくれたので良かった。



発行月 2019年3月
発行元 NPO法人アクションポート横浜
編集 2018年度学生スタッフ 長浜宏海
URL <http://actionport-yokohama.org>